# 平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

| 整理番号 | 5 | ー | 2 |
|---|---|---|---|

## 1　事務事業の表示

※ ■　：　該当

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 食育推進事業 | | | | | |
| 評価者 | 担当課名 | | 保健福祉課 | 担当係名 | | 保健係 |
| | 管理職 | 職名 | 課長 | 作成者 | 職名 | 係長 |
| | | 氏名 | 山崎佳之 | | 氏名 | 佐々木希美枝 |
| 事業の概要 | 乳幼児期から成人期までの一貫した食育事業を推進することにより、健康増進・生活習慣病予防及び生活の質（QOL）の向上を図ることを目的に栄養講座等、食生活改善・食育に関する事業を実施する。 | | | 全体計画 /単年度繰返<br>（平成 20 年度～ 24 年度） | | |
| | | | | 事業費 | 国・道支出金 | 千円 |
| | | | | | 地方債 | 千円 |
| | | | | | その他 | 千円 |
| | | | | | 一般財源 | 725 千円 |
| | | | | | 事業費計 | 725 千円 |
| 実施方法 | ■ 直営 | | □ 民間委託 | | □ その他（　　） | |
| 第５期総合計画（前期） | ■ 登載事業 | | □ 非登載事業 | 優先度 | B | |
| 事業の位置付け | 政策目標 | 2 | ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～ | | | |
| | 基本施策 | 6 | 保健・医療の充実 | | | |
| | 単位施策 | 1 | 主体的な健康づくりの促進 | | | |
| | 事務事業の種類 | ■ | 自治事務 | □ | 法定受託事務 | |
| | その他計画・根拠等 | | 食育基本法、母子保健法 | | | |

| 事業費 | 実施年度 | 20年度（実績） | 21年度（実績） | 22年度(実績) | 23年度(実績) | 24年度(見込) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国・道支出金 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 地方債 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | その他財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 雄武町負担額（一般財源） | 25 千円 | 41 千円 | 93 千円 | 77 千円 | 110 千円 |
| | 合計 | 25 千円 | 41 千円 | 93 千円 | 77 千円 | 110 千円 |

## 2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 【誰、何が（対象）】 | 町民 | 望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標） | | |
| 【抱える課題やニーズは】 | 生活習慣病予防と食の充実により生活の質（QOL）を向上する | 食育関連事業参加者数、望ましい生活習慣の獲得 | | |
| | | 指標（指標計算式／解説） | 目標値及び実績値 | |
| 【どのような状態になることを目指したのか（意図）】 | 生活習慣病等を予防するとともに、楽しみや潤いがある地域特性に合った食生活を実現する | ① 食育関連事業参加者数の増（平成22年度実績828人） | 目標年度 | 平成23年度 |
| | | | 目標値 | 828 人 |
| | | | 実績値 | 634 人 |
| | | | 達成度 | 76.6 % |
| 【その結果、どのような成果を実現したいか】<br>※成果＝目的 | 生活習慣病予防と食生活の充実を通して生活の質（QOL）の向上を実践できる町民が増える | ② 21時までに就寝する3歳児の割合（H20年度実績5.1%） | 目標年度 | 平成23年度 |
| | | | 目標値 | 5.1 % |
| | | | 実績値 | 8.7 % |
| | | | 達成度 | 170.6 % |

| 内容（どのような手段で何を行ったか） | |
|---|---|
| 食育健康学習の実施 | 乳幼児相談・保育所児童を対象とした食育講話、成人対象の栄養改善教室・調理実習等集団支援を行った。 |
| 個別栄養相談の実施 | 乳幼児健診、家庭訪問等により各自の食生活状況を把握しながら個別相談を行った。 |
| | |

## 3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

| | | |
|---|---|---|
| **必要**<br>必要／概ね必要／課題あり | ■ 義務的なもの<br>■ 全部<br>□ 一部 | 食育・栄養改善に関する課題は生活習慣病予防と生活の質（QOL）の向上等幅広くニーズがあり、重要性とともに必要性が高い事業であると考える。 |

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

| | | |
|---|---|---|
| **有効**<br>有効／概ね有効／課題あり | 設定した目標値の達成状況<br>□ 達成<br>■ ほぼ達成<br>□ 下回る | 事業内容の改編に伴い事業参加者数はやや減少したが、乳幼児相談等母子保健事業や特定健診等の内容を工夫した。生活の基盤となる子どもの早寝早起き等の生活リズムは改善傾向である。 |

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

| | | |
|---|---|---|
| **効率的**<br>効率的／概ね効率的／課題あり | 判断の理由<br>■ 事業費抑制<br>□ 人員削減<br>□ 時間短縮・作業軽減<br>■ その他 | 食材・食品は実物を展示し理解が深まるよう工夫するとともに、保存方法を工夫することでコスト削減に留意した。 |

(4)事務事業の公平性

| | | |
|---|---|---|
| **公平**<br>公平／概ね公平／公平でない | 判断の理由<br>□ 受益者負担がある<br>□ 受益者負担がない<br>□ 受益が一部に偏る<br>■ その他 | 受益者負担はないが食育の基盤づくりの上で重要な時期である乳幼児期の児童・保護者から成人期まで広く事業を展開することができた。 |

## 4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

| 自己評価（一次評価） | 評価会議評価（二次評価） | 町長評価（三次評価） |
|---|---|---|
| A | | |
| 食生活は特に個別性が高い課題であり個別支援を中心に事業を実施しほぼ目標を達成することができた。 | | |

**今後の展開方向**
（Action）

| | | |
|---|---|---|
| **継続／現状維持** | | |
| 生活習慣病予防、健康増進を図る上で食育上の課題の占める割合は高く、今後も事業内容を工夫しながら事業を進める。 | | |

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

## 5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）